



第15回

コミュニティビジネスってどんなビジネス？

市民協働安全課 (☎354-8179 FAX354-8316)

■コミュニティビジネスって何？

コミュニティビジネスとは、地域におけるさまざまな課題を解決するため、ビジネスの手法を用いて運営する事業のことです。

例えば、地域の人へ無料または少額で食事を提供する「子ども食堂」や、地域の食文化の発信と雇用を同時に実現する「農業レストラン」などがあります。

■身近なコミュニティビジネス

本市でも、障害者就労施設を

運営しながら、自分たちで育てた野菜を使った食品を販売している団体や、働きづらさを抱える人が就労準備のために訓練できるカフェを運営する団体など、幅広い分野で熱心な取り組みが展開されています。

■コミュニティビジネスを深掘り!

多様化する価値観、少子高齢化の進展など、社会情勢の変化により生じる地域課題については、その地域で生活する住民が最も身近に感じています。コミ

ュニティビジネスは、住民自らが地域の人材や施設などを活用することで新たな創業や雇用が生まれ、人のつながりを深めることができます。目の前の課題解決のみならず、地域づくりにおいても大変有効な手段です。

■まずは身近なところから

高齢者が住み慣れた家で安心して生活できるよう、低額で手助けを行う事業が始まったように、身近なコミュニティビジネスの入り口を探してみませんか。



第3回

11月5日は「津波防災の日」です

危機管理室 (☎354-8119 FAX350-3022)

■津波防災の日とは

平成23年3月に発生した東日本大震災を教訓として、11月5日が「津波防災の日」と定められました。嘉永7年(1854年)11月5日の安政南海地震(M8.4)で和歌山県を津波が襲った際、稲に火をつけて暗闇の中で逃げ遅れている人たちを高台に避難させて命を救った「稲むらの火」という逸話が由来です。平成27年には国連においても「世界津

波の日」に制定されました。

南海トラフ地震による津波は、70数分程度で本市まで到達すると想定されています。避難は「早く・高く・遠く」が原則です。海の近くや低いところにいる時に大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受信したりしたら、できるだけ早く海から離れた高台や高い建物を目指しましょう。また、津波は陸地への反射を繰り返す、何度も押し寄せることがあります。津波警報が解除さ

れるまでは、津波避難マップの津波避難目標ラインを目指して、高い場所へ避難しましょう。

■津波避難ビル

本市では、南海トラフ地震に備え、海岸線から4kmかつ標高5m以内にある3階建て以上の堅固な建物を対象に「津波避難ビル」を指定しています。いざという時に備え、自宅や勤務先周辺の避難場所の位置を津波避難マップで確認しておきましょう。



津波避難マップ▲

有料広告掲載欄

建設職人なら誰でも入れる組合です



建労 四日市支部

随時加入者募集中

三建国保

組合独自の建設労働者の健康保険

出産育児一時金(42万円)
葬祭費(本人10万円・家族7万円)
高額療養費、無料健康診断の開催
人間ドックに対する補助(3万3千円)
脳ドックに対する補助(2万円)など

三重県建設労働組合四日市支部 四日市市ときわ5丁目1-8 ☎(059)354-1531(代)

本欄は広告であり、広告の内容に関する一切の責任は広告主に帰属します。